

2018 年度
子どものためのオーケストラ検証プロジェクト
報告書

公益社団法人 日本オーケストラ連盟

目次

1	調査 A.....	5
1)	考え方・アプローチ.....	5
2)	調査・分析結果.....	6
①	回答者属性.....	6
②	子どもたちの心の動き.....	7
2	調査 B.....	10
1)	考え方・アプローチ.....	10
2)	調査・分析結果.....	11
①	回答者属性.....	11
②	子どもたちの意識・心境の変化.....	12
3	＜参考資料＞調査 C（2017 年度実施）.....	14
4	考察（成果と課題）.....	20
1)	本プロジェクトの成果.....	20
2)	今後に向けた課題.....	20
5	アンケート票.....	21

本プロジェクトについて

＜目的＞

「子どものためのオーケストラ検証プロジェクト」は、子どもを対象として様々な形で実施されているオーケストラ活動が、子どもたちの成長にどのような影響をもたらしているかを検証する取り組みです。オーケストラ体験の効用を可視化するとともに、多くの方々に知って頂くことを目的とし、2015 年度から継続して調査を実施しています。

＜背景＞

人間の成長過程において芸術に触れあい体験することが重要かつ不可欠で、豊かな人格形成の礎となることは既に社会的にも認知されており、芸術体験が成長過程において欠かせないものであることに間違いありません。こうしたことから子どもへ芸術体験を提供する取り組みは全国各地で様々に行われています。

芸術体験を提供するオーケストラは、音楽芸術の目に見えない力が子どもたちの反応から確実に「心の成長」へと繋がっていることを確信するものです。子どもたちと一緒に音楽と調和する瞬間に、私たちは「音楽の力」を感じ取っています。当プロジェクトは、こうした“目に見えない”「音楽の力」を可視化し、多くの方々の心にお届けすることを目的に開始いたしました。

＜3つの調査＞

本プロジェクトでは、オーケストラの音楽体験を通じた子どもたちの成長への影響を、①体験をしたまさにその時、②体験をしてから少し間を置いた時点（記憶が薄れない程度に）、③進路や職業を志向・選択する時点（将来）、という 3 つの時間スケールで捉えました。そして、それぞれの時間スケールにおける影響を把握するために、調査 A、B、C の 3 つの調査を設計しました。なお、調査 C はパイロット調査として試行的に 2017 年度に実施したものです。

調査概要

	調査 A	調査 B	＜参考＞調査 C
調査目的	オーケストラの音楽体験の中で起こった心の動きを把握する	オーケストラの音楽体験後しばらくして起こった意識・心境の変化を把握する	オーケストラの音楽体験による子どもたちの将来の可能性や進路選択への影響を把握する
調査対象	3つのプロオーケストラ（九州交響楽団、山形交響楽団、名古屋フィル）の文化庁などによる子どものための事業の対象となった小学校（5校）の生徒 ※本プロジェクトの趣旨にご賛同・ご協力くださった学校を対象に実施 ※選定した対象校で、調査 A・B 両方を実施		インターネットアンケート調査モニター
	1～6 年生	3～6 年生	
実施方法	公演に先立ち、各校ご担当教諭宛に実施方を依頼し、アンケート票を送付 アンケート票は各校各学年向け別に梱包（予備票も同封） 返信用の宅配便送付票を同封し、送付を依頼	公演実施から2週間後を目途に、各校ご担当教諭宛に実施方を依頼し、アンケート票を送付 （以下は調査 A と同じ）	楽天リサーチの登録モニターへのモニター調査 （小学校時にオーケストラが来校した人とそうでない人を、回答によって選別し、比較検討）
有効回収サンプル数	740 件	495 件	400 件
実施時期	2018 年 6 月～12 月		2018 年 3 月

調査にご協力いただいた小学校（調査 A、調査 B）

2018 年度調査では、4 つの県にある 5 校にご協力を頂きました。

それぞれ小学校の体育館や地域の会館で、オーケストラを聴く、オーケストラと合奏するなどの約 70 分のオーケストラ・プログラムを経験した小学生に対してアンケート形式で調査を行いました。

府県	学校名
鹿児島県	阿久根市立 脇本小学校
兵庫県	丹波市立 中央小学校
兵庫県	淡路市立 石屋小学校
高知県	香美市立 片地小学校
香川県	三豊市立 桑山小学校

＜プロジェクト実施期間＞

2018 年 6 月～12 月

1 調査 A

1) 考え方・アプローチ

オーケストラの音楽が、さまざまな形で人の心を動かすことは、多くの方々が経験的に知っているところです。本プロジェクトでは、オーケストラに触れた子どもたちの心の動きを、「感動」という“大括り”な言葉だけで済ませずに、より繊細に捉えることを目指しました。音楽による感動についての言語表現とその分類に関する先行研究を参考にしながら、心の動きを捉える評価軸やその構成要素を表現する言葉にアレンジを加え、子どもたちの心が動く様子を包括的かつ的確に把握できるような指標体系づくりに努めました。

こうして構築した指標体系を使用したアンケート票（内容は共通、学齢により漢字・仮名づかいを調整、巻末資料参照）を、オーケストラの時間が終わった直後の子どもたちに学校で配付して頂き、一人ひとりの心の動きを鮮度が高い状態でとらえました。

心の動きを捉える指標体系（漢字・仮名づかいは小学6年生向け）

評価軸	言葉
至福	胸がいっぱい
	言葉にできない
	なみだが出そう
感嘆	ジーンときた
	心が温まった
	心が楽になった
魅了	グッときた
	キラキラしていた
	うっとりした
興奮	ドキドキした
	ウオー！という感じ
	だれかに言いたくなった
歓喜	ワクワクした
	心がおどった
	スカッとした
覚醒	こんなの初めてだ
	何かを思い出した
	ちがう自分になった
刻印	まだ聞こえている
	わすれられない
	自分の中に入った
悲痛	さびしくなった
	つらい感じになった
	いやなことを思い出した

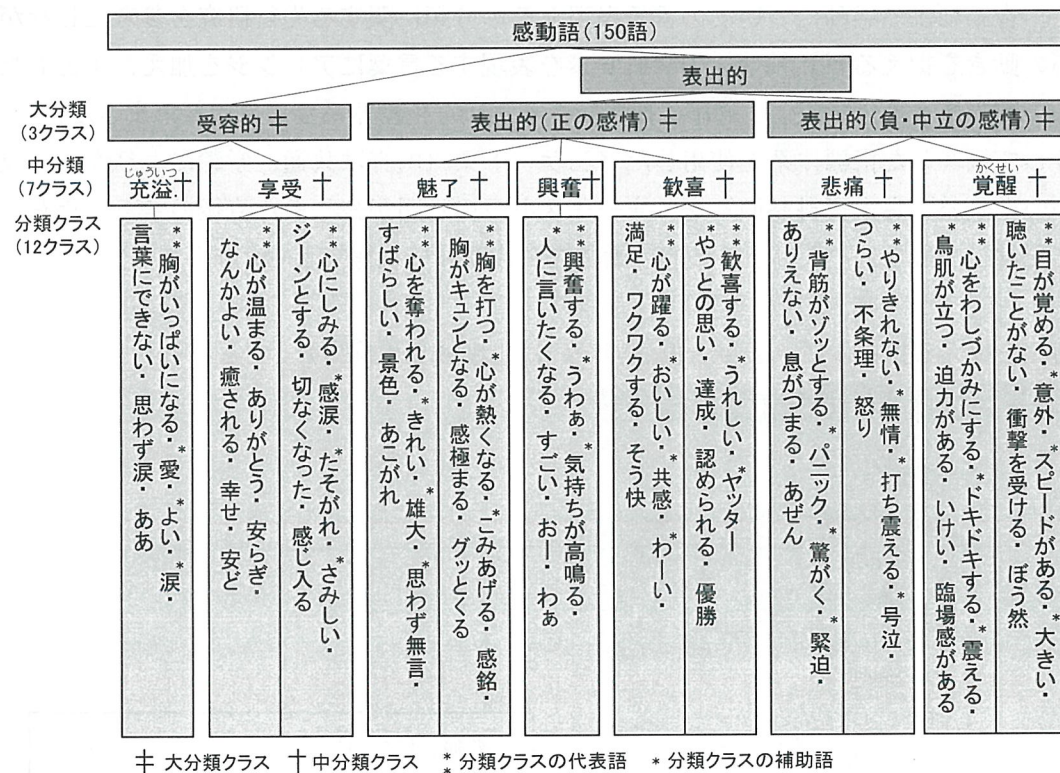
「悲痛」について

「悲痛」は、8つの評価軸のうち、唯一ネガティブな感情を表すものです。これを外してポジティブな面に焦点を絞る方法も検討しましたが、できるだけ漏れなく心の動きを把握することが望ましいことや、感情の豊かさを育てるには、一見してネガティブな心の動きも、必ずしも悪い方向に働くとは限らず、むしろ感性の幅を広げる効果も期待できることに着目して、今回の調査では「悲痛」を8つの評価軸の1つとして組み入れています。

先行研究（感動語の分類）

“感動”と音楽（の演奏）との関係に関する先行研究では、感動を表現する語を7つのカテゴリーに分類し、これを「感動評価尺度」と名付けて、さまざまな楽曲を試行的に評価しています。

感動語の分類



〔出典〕大出（NHK 放送技術研究所）ほか「音楽聴取における“感動”の評価要因 ――感動の種類と音楽の感情価の関係」、情報処理学会論文誌 Vol.50 No.3 1111-1121 （2009年3月）

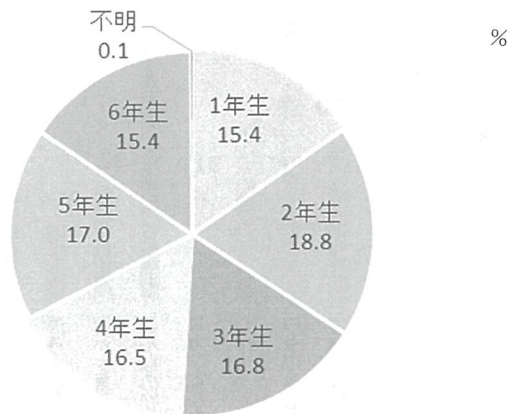
2) 調査・分析結果

①回答者属性

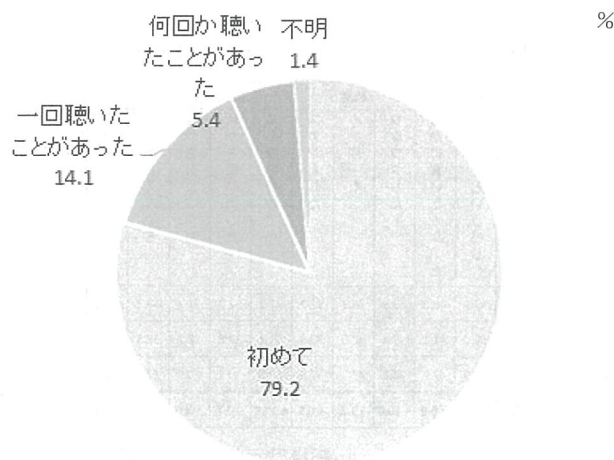
調査Aの回答者の構成は、2年生18.8%がやや多くなっていますが、概ね均等な構成比となっています。

なお、今回の調査では、オーケストラの演奏を生で聴いた経験がない子どもたちが8割近く（79.2%）を占めており、2015年度調査の71.9%、2017年度調査69.4%よりオーケストラの演奏を初めて聴く子どもたちがやや多い構成となっています。

学年 (N=740)



オーケストラの演奏を生で聴いた経験 (N=740)

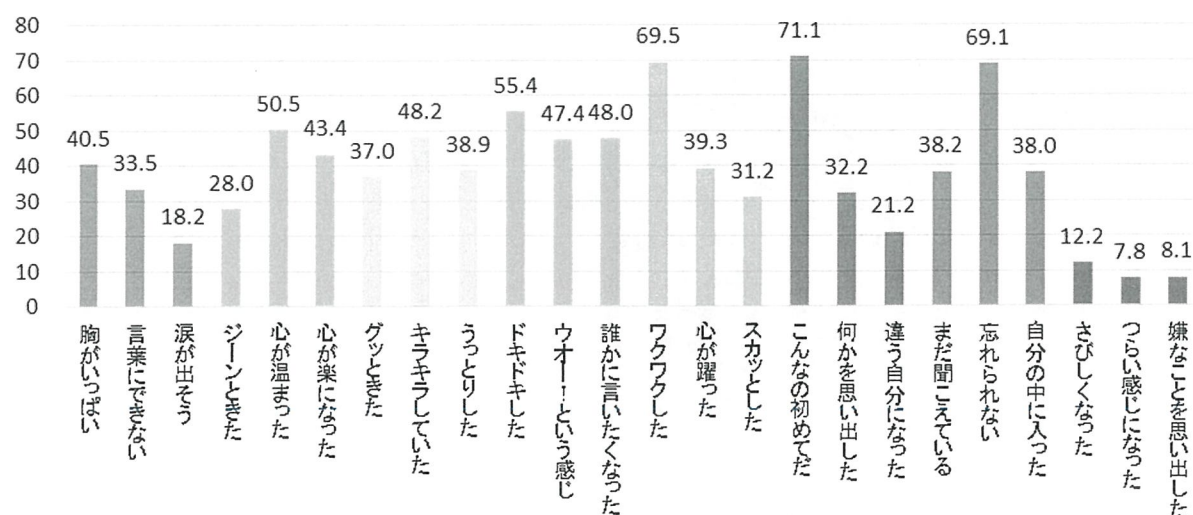


②子どもたちの心の動き

24の指標のうち、「こんなの初めてだ」が7割(71.1%)でトップでした。僅差で「ワクワクした」(69.5%)、「忘れられない」(69.1%)が続き、トップ3の項目は2015年度、2017年度の調査とも共通しています。約7割の子どもたちにとって、オーケストラの音楽体験が特別なものとなっている様子が、今回の調査でもみてとれます。前回、前々回調査と比較しても、このトップ3の項目はより高い傾向です。

なお、「悲痛」を構成する「さびしくなった」「つらい感じになった」「嫌なことを思い出した」は、それぞれ12.2%、7.8%、8.1%と多くありませんが、これは演奏された曲目の曲想のほか、長時間座って聴く必要があることも影響していると考えられます。

子どもたちの心の動き (N=740、複数回答)



子どもたちの心の動きの経年比較 (複数回答、%)

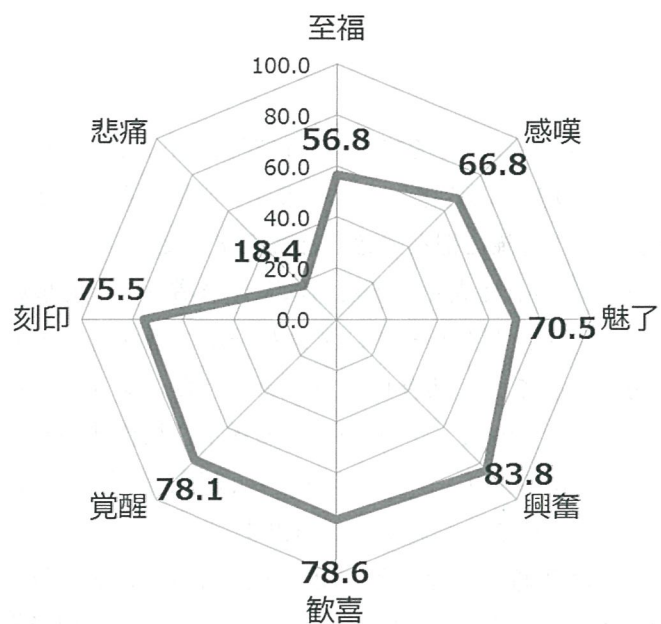
	合計	至福			感嘆			魅了			興奮			歓喜			覚醒			刻印			悲痛		
		胸がいっぱい	言葉にできない	涙が出そう	ジーンときた	心が温まった	心が楽になった	グツときた	キラキラしていた	うっとりした	ドキドキした	ウォー!という感じ	誰かに言いたくなった	ワクワクした	心が躍った	スカッとした	こんな初めてだ	何かを思い出した	違う自分になった	まだ聞こえてる	忘れられない	自分の中に入った	さびしくなった	つらい感じになった	嫌なことを思い出した
2018年度調査	740	40.5	33.5	18.2	28.0	50.5	43.4	37.0	48.2	38.9	55.4	47.4	48.0	69.5	39.3	31.2	71.1	32.2	21.2	38.2	69.1	38.0	12.2	7.8	8.1
2017年度調査	752	39.2	36.0	20.9	29.4	50.3	37.9	38.2	46.7	41.1	49.1	56.0	41.1	59.4	42.6	30.3	59.2	32.8	18.2	36.3	62.4	30.9	9.8	6.4	5.7
2015年度調査	2,944	42.8	39.0	18.7	32.5	52.7	44.0	42.4	45.9	48.0	51.6	48.9	42.2	64.6	43.5	37.5	64.0	30.1	20.0	37.3	69.5	35.0	8.7	5.1	5.5
2018-2017	-	+1.3	-2.5	-2.6	-1.4	+0.3	+5.5	-1.1	+1.6	-2.2	+6.3	-8.6	+6.9	+10.0	-3.2	+0.9	+11.9	-0.7	+3.0	+1.9	+6.7	+7.1	+2.3	+1.5	+2.4

網掛け：各年度の選択率がトップ3の項目

さらに、評価軸とした8つの感情について見ていきます。それぞれの評価軸を構成する3つの指標のいずれかに○をつけた回答者は、その感情に該当するものとしてカウントしました。例えば、「至福」については、「胸がいっぱい」「言葉にならない」「涙が出そう」のどれか1つでも○をつけた回答者は、『至福』を感じた人」として捉えています。

8つの感情のうち、4つの「興奮」「歓喜」「覚醒」「刻印」「魅了」を感じた児童は、順に83.8%、78.6%、78.1%、75.5%、70.5%と、70%を超えています。また、「感嘆」(66.8%)を感じた児童も6割以上と多くなっています。さらに、「至福」も過半数(56.8%)と、これらには及ばないものの、大半の児童が感じています。一方、「悲痛」は18.4%にとどまっています。経年でみると、やや数値に変動のみられる感情もあるものの、8つの感情への影響の大きさ(順位)は、ほぼ一定であることがみてとれます。

8つの評価軸毎に見た子どもたちの心の動き（N=740、複数回答、％）



8つの評価軸毎に見た子どもたちの心の動き経年比較（N=740、複数回答、％）

	合計	至福	感嘆	魅了	興奮	歓喜	覚醒	刻印	悲痛
2018年度調査	740	56.8	66.8	70.5	83.8	78.6	78.1	75.5	18.4
2017年度調査	752	59.2	65.4	73.0	81.6	73.1	69.5	70.7	13.4
2015年度調査	2,944	59.8	70.8	76.1	78.9	78.8	72.8	76.9	12.0
2018-2017	-	- 2.4	+ 1.3	- 2.5	+ 2.1	+ 5.5	+ 8.6	+ 4.8	+ 4.9

2 調査 B

1) 考え方・アプローチ

心が動くというのは、多くの場合には一時的なことです。本プロジェクトでは、「心が動いた後に、子どもたちの心の持ちようがどのように変化しているのか」を測定することで、オーケストラの音楽体験による影響を、よりの確に把握できると考えました。

調査 B の設計にあたっては、このような視点に立ち、子どもたちの意識ないし心境の変化を測るための指標を作成しました。ワーキンググループのメンバーが、各オーケストラの音楽活動におけるさまざまな経験を思い起こし、共有しながらディスカッションを重ねた結果として、「情操」「関係」「関心」「意欲」の 4 つの領域による体系的指標体系を設けました。各領域では、影響の深さに応じてレベル 1～3 という 3 つの段階を設定しました。レベルが上がるごとに、影響が深くなっていくことを想定しています。

この指標を使ったアンケート票（内容は共通、学齢により漢字・仮名づかいを調整）を作成し、公演実施の 2 週間後を目途として、再びアンケートを実施しました（ご担当教諭に配付・回収を依頼）。なお、回答の難易度がやや高くなるため、小学 3 年生以上を対象としました。

子どもたちの意識・心境の変化を捉える指標体系（漢字・仮名づかいは小学 6 年生向け）

領域	項目	深さ
情操	元気が出てきた	レベル1
	何だかおだやかな気持ちになった	レベル2
	毎日を楽しめるようになった	レベル3
関係	周りの人にやさしくできるようになった	レベル1
	友達や家族と一緒に何かをしたくなった	レベル2
	他の人のことを大切に考えるようになった	レベル3
関心	新しいことにきょう味が湧いた	レベル1
	物事を注意して見聞きするようになった	レベル2
	ゆっくり、じっくり考えるようになった	レベル3
意欲	勇気のようなものがわいた	レベル1
	何かにちょう戦したくなった	レベル2
	何か新しいものを作りたくなった	レベル3

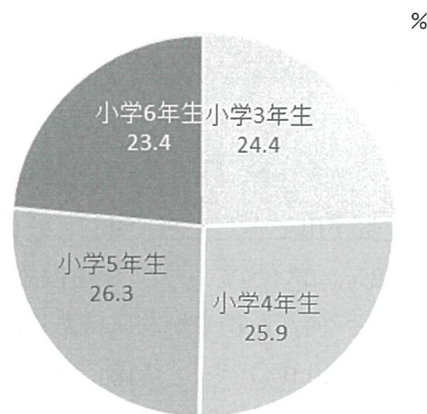
2) 調査・分析結果

①回答者属性

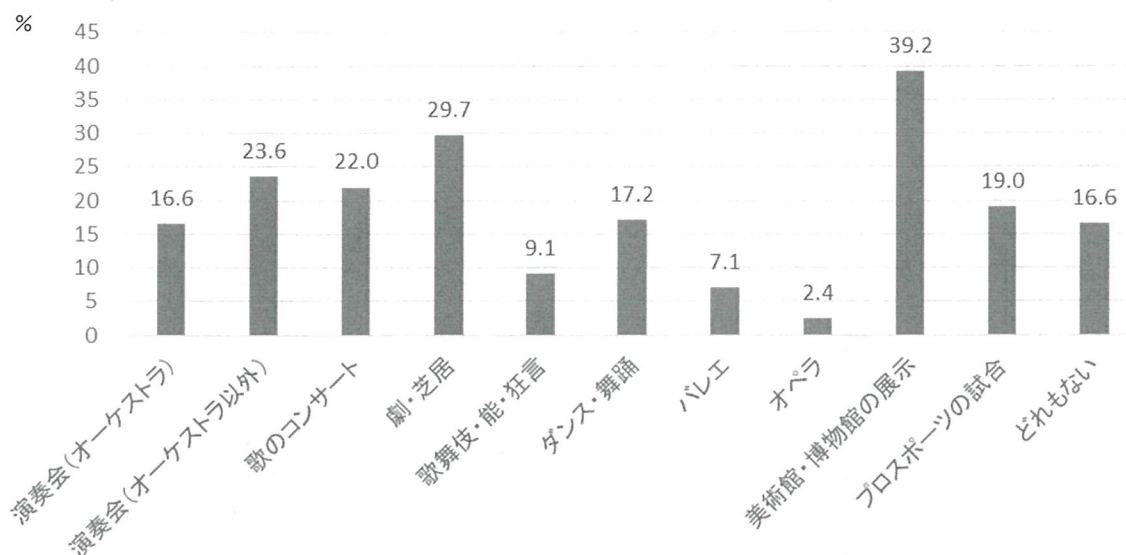
小学3年生から6年生までの4つの学年の構成比に大きな開きはありませんでした。

オーケストラの演奏会への参加経験者は16.6%でした。また、学校の授業以外で音楽や楽器をやっている児童は24.4%で、今はやっていない（以前やっていた）児童（11.3%）と合計すると35.7%でした。

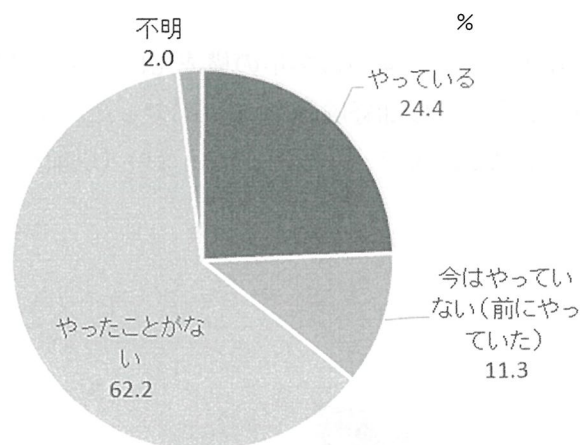
学年（N=495）



生で見たり聞いたりしたことのある文化・芸術・スポーツ（N=495）



学校の授業以外で音楽や楽器をやっているか (N=495)

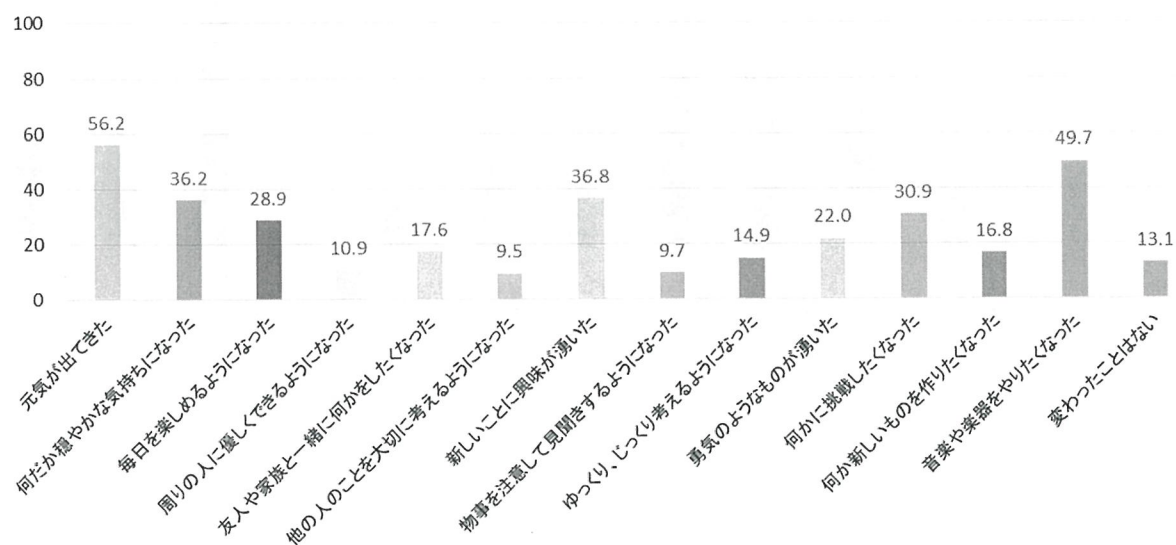


②子どもたちの意識・心境の変化

「情操」のレベル1項目である「元気が出てきた」と「関心」のレベル1項目である「新しいことに興味が沸いた」が順に 56.2%、36.8%でトップ2を占めます。これに続くのが、「情操」のレベル2項目となっている「何だか穏やかな気持ちになった」(36.2%)です。「意欲」の「何かに挑戦したくなった」(30.9%)や、「情操」の「毎日を楽しめるようになった」(28.9%)も、3割前後と少なからぬ意識・心境の変化がみられます。4つの領域以外で追加的に尋ねた「音楽や楽器をやりたくなった」は49.7%で、「元気が出てきた」に次ぐ2番目の高さです。

2015年度、2017年度に実施した調査の結果でも、変化の大きかったトップ5項目は共通しています。

子どもたちの意識・心境の変化 (N=495、複数回答)



子どもたちの意識・心境の変化の経年比較（複数回答）

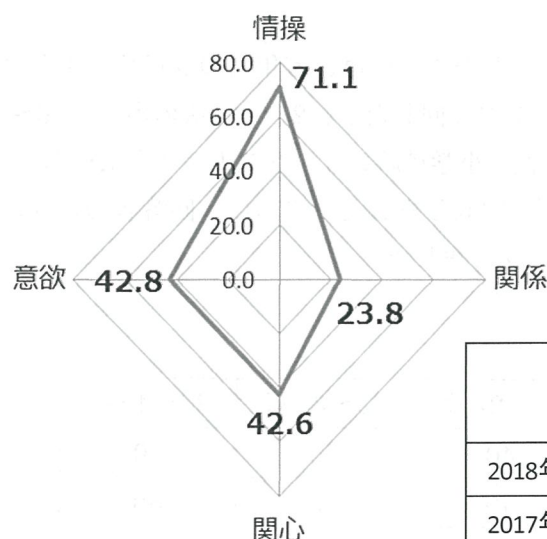
		情操				関係				関心				意欲				その他	
	合計	元気が出てきた	何だかおだやかな気持ちになった	毎日を楽しくするようになった	周りの人になつた	何かを家族と一緒にした	友だちや家族と一緒にした	他の人のことを大切に考えるようになった	新しいことにきょう味がわいた	物事を注意して見聞きするようになった	ゆるくり、じつくり考えるようになった	勇気のようなものがわいた	何かにちよう戦した	何か新しいものを作りたくなつた	音楽や楽器をやりたくなつた	変わったことはない			
2018年度調査	495	56.2	36.2	28.9	10.9	17.6	9.5	36.8	9.7	14.9	22.0	30.9	16.8	49.7	13.1				
2017年度調査	490	50.4	41.0	28.0	12.4	20.8	13.3	35.7	12.7	21.2	21.8	29.4	16.9	44.1	13.3				
2015年度調査	2,087	56.3	47.7	28.6	13.1	18.5	13.9	39.2	12.0	19.1	27.6	29.9	18.8	47.3	9.5				
2018-2017	-	+5.8	-4.9	+0.9	-1.5	-3.2	-3.8	+1.1	-3.0	-6.3	+0.2	+1.5	-0.2	+5.6	-0.1				

網掛け：各年度の選択率がトップ5の項目

領域別に見ていくと、「情操」の変化は71.1%が感じており、4領域で最も多くなっています。オーケストラの音楽体験が、多くの児童にとって心の平安・安定につながっていることが確認できました。また、より具体的な行動の変化につながる「意欲」や「関心」の変化を感じている児童も、順に42.8%、42.6%と、4割以上です。

一方、さらにハードルが高いと思われる「関係」の変化を感じている児童も4人に1人近く（23.8%）に達しています。人間関係をより良好にする姿勢を持つことにまで、オーケストラの音楽体験の効果が及んでいることがうかがえます。

領域別に見た子どもたちの意識・心境の変化／経年比較（いずれも複数回答、%）（N=495）



	合計	情操	関係	関心	意欲
2018年度調査	495	71.1	23.8	42.6	42.8
2017年度調査	490	68.6	28.8	45.9	43.3
2015年度調査	2,087	76.4	27.7	49.5	47.4
2018-2017	-	+2.5	-4.9	-3.3	-0.4

＜参考資料＞調査 C（2017 年度実施）

1) 考え方・アプローチ

オーケストラの音楽体験による子どもたちの将来の可能性や進路選択への影響を把握することを目的とする調査 C については、さまざまな方法が考えられます。教員や子どもたち自身に、日々の行動の様子について尋ねる、あるいは記録していただくことは、その一つです。また、子どもたちの行動の変化の指標となるデータ（例えば、図書館の利用状況）を、学校のご協力をいただいて収集することも考えられます。より長期的な視点から、大人を対象として、子ども時代にオーケストラを聴いた体験が自分にどのような影響を及ぼしたかを調べるアンケートを行うことも、可能性として有力です。

こうした選択肢の中から、2017 年度は、17 歳から 49 歳のインターネット調査モニターに対して、小学校にオーケストラが来校したかどうかを尋ね、「来校あり」と「来校なし」のそれぞれ 200 人（有効回答ベース）に対するアンケート調査を実施し、結果を比較することで、その後の人生に与えた影響についての検証を行いました。

文化庁では、「文化芸術による子供の育成事業」の資料の中で、文化・芸術によって、「感性・情操」、「創造力・想像力」、「思考力・表現力」、「自己肯定感」、「社会性・協調性」、「責任感」の醸成を目指すとしています。そこでこの調査では、この 6 つの領域を検証する指標をアンケート項目として作成し、対象者に尋ねる形を取りました。

2) 調査・分析結果

①調査対象者の状況

インターネット調査のアンケートモニターは、若年層の登録数が少なめなことから、若年層（17～22 歳）のみを 80 サンプル回収とし、23～35 歳の層と、36～49 歳の層については各 160 サンプル回収しました。小学校時のオーケストラの「来校あり」と「来校なし」は、それぞれの年齢層で半数ずつ回収しました。さらに、回答者の性別の偏りを避けるため、男女比は 1：1 で回答者を確保しました。

回収数の内訳（サンプル数）

オーケストラの来校状況	17～22 歳	23～35 歳	36～49 歳
小学校時来校あり	40	80	80
小学校時来校なし	40	80	80

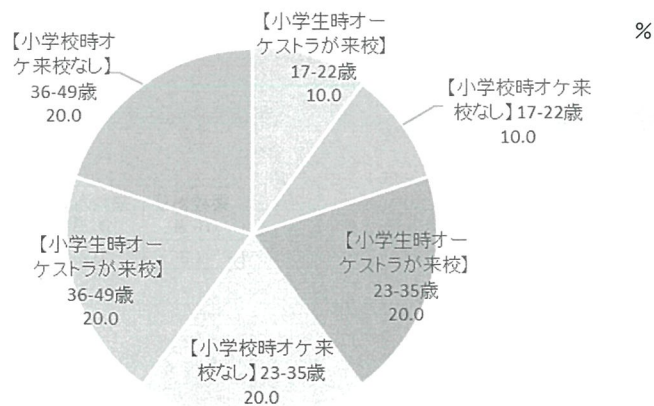
アンケートモニターと、予備調査による「来校あり」「来校なし」の振り分けについて

今回の調査では、「楽天リサーチ」に登録するアンケートモニターに対して調査を実施しました。このモニターは、楽天グループの提供するさまざまな商品・サービスの利用者の中から構成されており、登録数は2016年3月末時点で約230万人となっています。不正回答者は、調査会社の基準に則り継続的に監視・排除しています。

「来校あり」と「来校なし」は、予備調査を行い、アンケートへの回答を元に振り分けました（設問は、P.28にある調査票SC1をご参照ください）。

「来校あり」の回答者の出現率予測に基づいて、まずは予備調査にて1万サンプル回収し、「来校あり」「来校なし」の条件にマッチした回答者に、本調査への回答に進んでもらいました（本調査では、必要な回収数に達した時点で調査が自動的に完了するシステムとなっています）。

回答者の構成

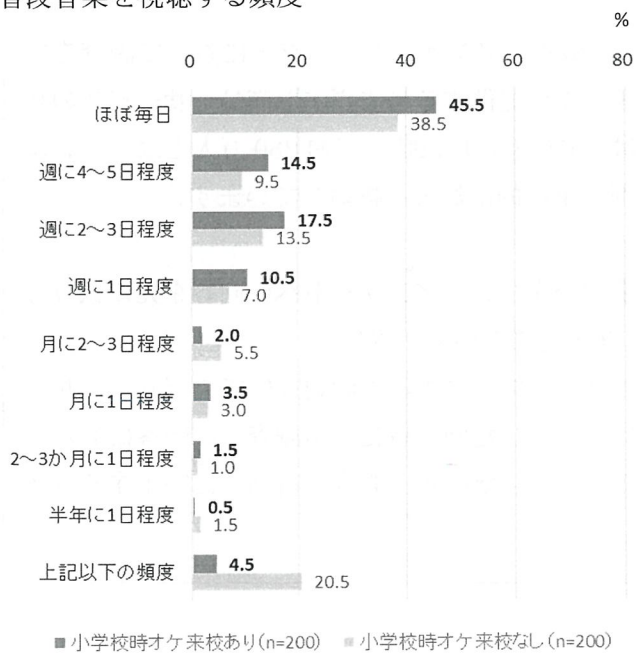


普段の音楽の視聴頻度とオーケストラ音楽の視聴頻度では、いずれも「来校あり」の回答者の頻度が「来校なし」の回答者よりも高い傾向がみられ、普段の音楽との関わりの深さの違いがみてとれる結果となりました。

なお、1週間の平均視聴日数を算出*してみると、「来校あり」の層では、音楽全般が週に4.6日、オーケストラ音楽が週に1.3日となり、オーケストラ音楽にも週に1度は触れている様子がうかがえます。一方、「来校なし」の層では、音楽全般が週に3.7日、オーケストラ音楽が週に0.2日（月に1日未満）となりました。

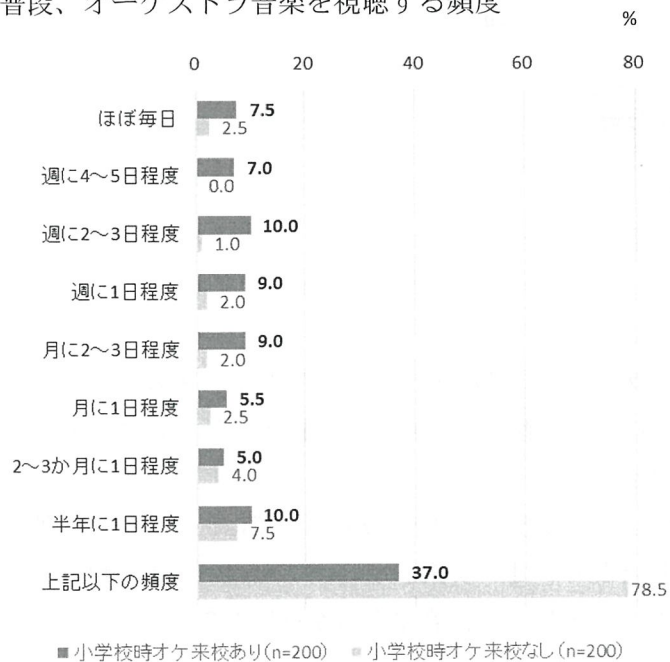
* 「ほぼ毎日」を7、「週に4～5日」を5、「週に2～3日」を3、「週に1日程度」を1、「月に2～3日」を0.5、「月に1日程度」を0.25、「2～3か月に1日程度」を0.12、「半年に1日程度」を0.05、「上記以下の頻度」を0として、選択率と掛け合わせて平均値を算出しました。

普段音楽を視聴する頻度



来校あり (日/週)	来校なし (日/週)
4.6	3.7

普段、オーケストラ音楽を視聴する頻度



来校あり (日/週)	来校なし (日/週)
1.3	0.2

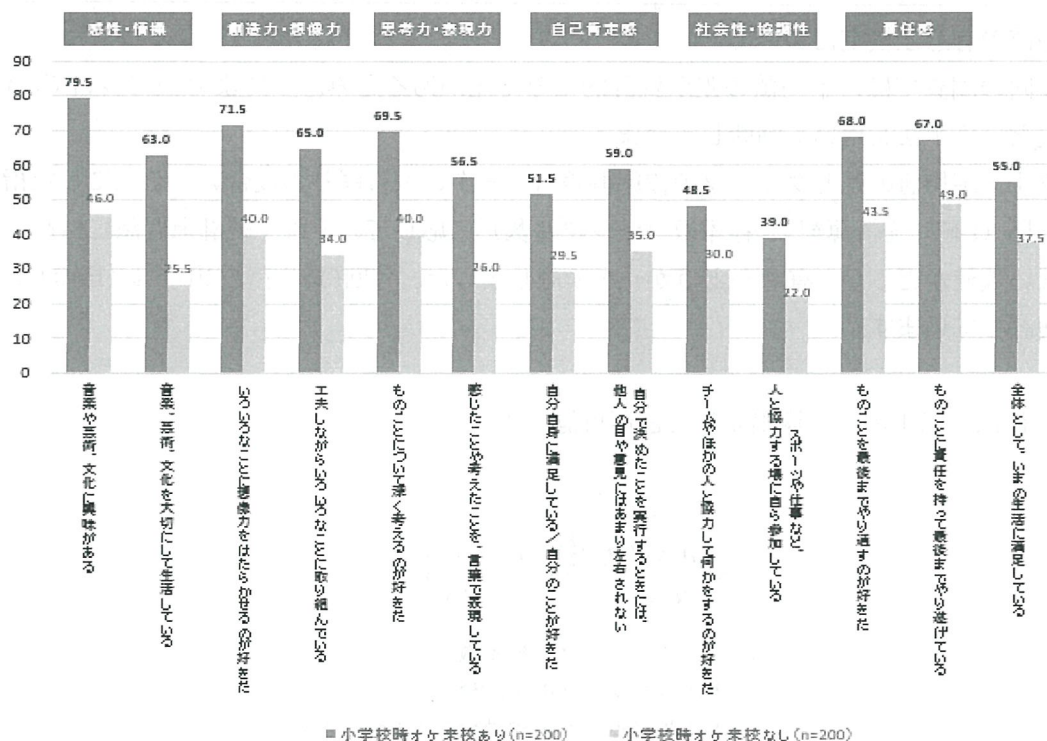
②小学校時に生のオーケストラが来た／来ていないグループ間の違い

6つの領域について、「来校あり」と「来校なし」の自己評価をみると、「来校あり」の回答者が「来校なし」の回答者よりも肯定的に自身を評価する割合が、すべての項目で高くなっています。特に、「来校あり」の回答者では、「音楽や芸術、文化に興味がある」(79.5%)、「いろいろなことに想像力を働かせるのが好きだ」(71.5%)、「ものごとについて深く考えるのが好きだ」(69.5%)、「ものごとを最後までやり通すのが好きだ」(68.0%)、「ものごとに責任を持って最後までやりとげている」(67.0%)といった「感性・情操」「創造力・想像力」「思考力・表現力」「責任感」の領域で、大多数が肯定的な評価をしていることがみてとれます。

評価の平均値を比較した結果をみても、「来校あり」が「来校なし」よりも統計的にも高いとの結果になりました。年代別でみると、17歳～22歳の層で有意な差がみられない項目が一部みられますが、これは、今回の調査では、他の年代層と比べて回答数が少ないために、統計的に差があるとまではいえないということだと考えられます。

オーケストラの来校体験が、その後の生活や人生に与えた影響についても、「来校あり」の選択率が、「来校なし」を大きく上回る項目がみられました。特に、「音楽が（より身近に感じられるようになった）」、「楽器を始めた」、「既に始めていた楽器の練習に身が入った」、「音楽を（より積極的に聞き始めた）」といった「感性・情操」の領域では、オーケストラの来校が大きな影響を与えたことがみてとれます。

6つの領域に対する自己評価（「あてはまる」、「ややあてはまる」の回答率の合計値、％）



6つの領域に対する自己評価（平均値*）

	感性・情操		創造力・想像力		思考力・表現力		自己肯定感		社会性・協調性		責任感		QOL
	音楽や芸術、文化に興味がある	音楽、芸術、文化を大切に生活している	のいろいろなことに想像力をはたらかせるのが好きだ	工夫しながらいろいろなことに取り組んでいる	ものごとについて深く考えるのが好きだ	感じたことや考えたことを、言葉で表現している	好きだ	自分自身に満足している／自分のことが	自分で決めたことを実行するときには、他人の目や意見にはあまり左右されない	チームやほかの人と協力して何かをするのが好きだ	スポーツや仕事など、人と協力する場に自ら参加している	ものごとを最後までやり通すのが好きだ	ものごとに責任を持って最後までやり遂げている
小学校時オケ来校あり	4.44	3.16	3.61	3.11	3.80	2.55	1.80	2.52	1.27	0.75	3.21	3.20	1.74
小学校時オケ来校なし	0.18	-1.16	0.35	-0.13	0.40	-1.08	-1.27	0.04	-0.62	-1.84	0.72	0.89	-0.40
【来校あり】17-22歳	3.58	2.43	2.20	1.43	1.80	1.15	0.63	2.13	0.38	-0.83	2.20	2.15	0.75
【来校なし】17-22歳	0.50	-1.10	0.10	-0.63	0.78	-0.68	0.45	-0.30	-0.70	-1.28	0.38	0.70	0.28
【来校あり】23-35歳	5.63	4.01	4.26	3.96	4.55	2.96	2.44	2.79	2.20	1.91	3.68	3.66	2.40
【来校なし】23-35歳	0.51	-0.68	0.63	0.34	0.48	-1.25	-1.25	0.31	-0.14	-1.21	1.00	1.08	-0.29
【来校あり】36-49歳	3.68	2.66	3.65	3.09	4.04	2.84	1.74	2.45	0.79	0.38	3.25	3.26	1.58
【来校なし】36-49歳	-0.31	-1.68	0.20	-0.34	0.14	-1.10	-2.15	-0.06	-1.06	-2.75	0.61	0.79	-0.84

網掛け：「来校あり」が「来校なし」よりも統計的に有意に高い項目

*「あてはまる」を10点、「ややあてはまる」を3点、「どちらともいえない」を0点、「あまりあてはまらない」を-3点、「あてはまらない」を-10点とし、選択率を掛け合わせた平均値を算出

平均値の有意差検定について

今回の調査では、平均値の差が統計的にみて差があるとみなしてよいのかについて、t検定という手法を用いて判断しています。

まず、平均値の差とグループの標準偏差（データの散らばりの度合い）を元にした指数の比（t値）を計算*し、標本数（サンプル数）に応じて、それが統計上偶然には起こらない数値かどうか（有意かどうか）を検証しました。今回は、有意水準5%（P=0.05）で検証しています。

*t値は、以下の式で算出することが可能です

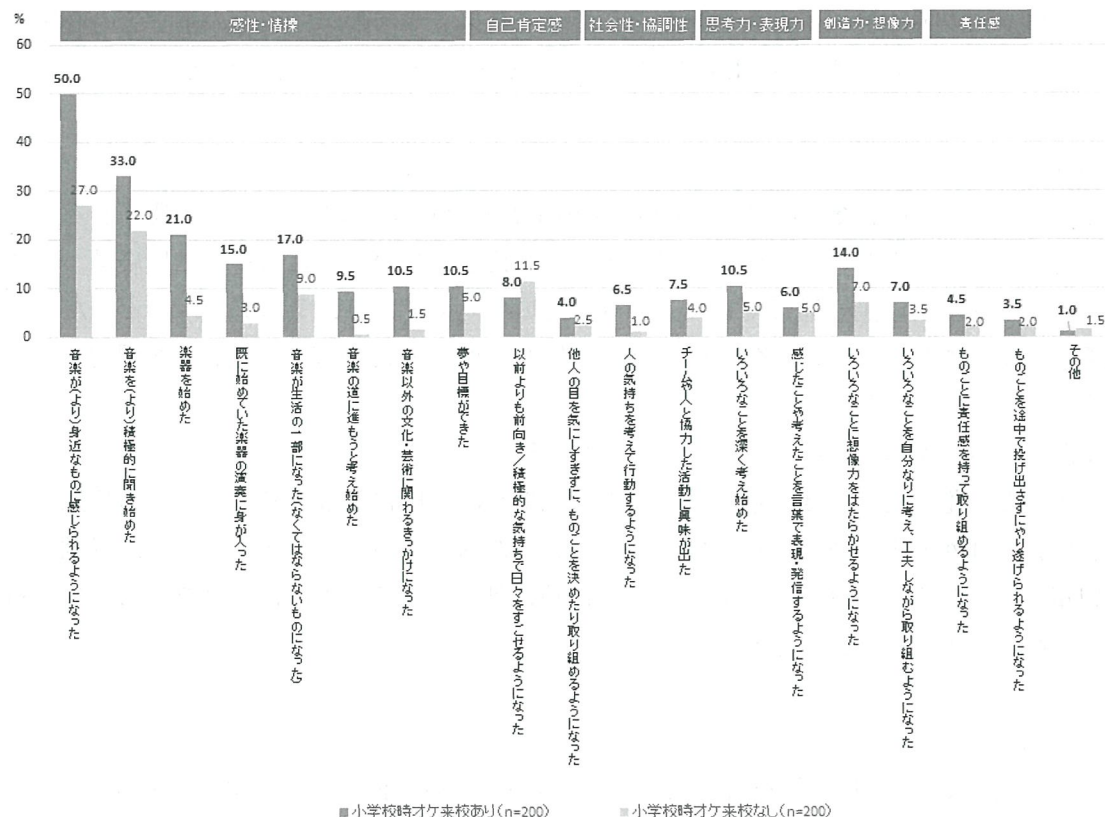
$$t = \frac{x_1 - x_2}{\sqrt{\frac{n_1 s_1^2 + n_2 s_2^2}{n_1 + n_2 - 2} \left(\frac{1}{n_1} + \frac{1}{n_2} \right)}}$$

n_1, n_2 : 各グループの標本数

x_1, x_2 : 各グループの平均値

s_1^2, s_2^2 : 各グループの標準偏差の2乗(分散)

オーケストラの来校体験（「来校なし」の回答者には音楽や音楽イベント）が
その後の生活や人生に与えた影響



オーケストラの来校体験（「来校なし」の回答者には音楽や音楽イベント）が
その後の生活や人生に与えた影響（選択率の差）

	合計	感性・情操								自己肯定感		社会性		思考力・表現力		創造力・想像力		責任感	
		音楽が（より）身近なものに感じられるようになった	音楽を（より）積極的に聞き始めた	楽器を始めた	既に始めていた楽器の演奏に身が入った	音楽が生活の一部になった（なくてはならないものになった）	音楽の道に進もうと考え始めた	音楽以外の文化・芸術に関わるきっかけになった	夢や目標ができた	他人の目を気にしすぎずに、ものごとを決めたり取り組めるようになった	以前よりも前向き／積極的な気持ちで日々をすごせるようになった	人の気持ちを考えて行動するようになった	チームや人と協力した活動に興味が出た	いろいろなことを深く考え始めた	感じたことや考えたことを言葉で表現・発信するようになった	いろいろなことに想像力をはたらかせようになった	いろいろなことを自分なりに考え、工夫しながら取り組むようになった	ものごとには責任感を持って取り組めるようになった	ものごとを途中で投げ出さずにやり遂げられるようになった
小学校時オケ来校あり	200	50.0	33.0	21.0	15.0	17.0	9.5	10.5	10.5	8.0	4.0	6.5	7.5	10.5	6.0	14.0	7.0	4.5	3.5
小学校時オケ来校なし	200	27.0	22.0	4.5	3.0	9.0	0.5	1.5	5.0	11.5	2.5	1.0	4.0	5.0	5.0	7.0	3.5	2.0	2.0
「来校あり」-「来校なし」	-	+23.0	+11.0	+16.5	+12.0	+8.0	+9.0	+9.0	+5.5	-3.5	+1.5	+5.5	+3.5	+5.5	+1.0	+7.0	+3.5	+2.5	+1.5

網掛け：「来校あり」(%) - 「来校なし」(%) の差が大きい項目トップ5

4 考察（成果と課題）

1) 本プロジェクトの成果

本プロジェクトでは、子どもを対象としたオーケストラ活動が、多くの小学生の心を動かすとともに、その意識・心境に好影響を与えていることを検証できました。

<調査 A>

オーケストラに触れたその場で、7割以上の子どもたちは「興奮」「歓喜」「魅了」といった感覚に包まれており、過半の児童は「至福」さえ感じています。こうした反応は、各オーケストラが演奏活動を通じて日々追い求めているものであり、その努力が子どもたちを相手に、確かに実を結んでいることを、2015年度、2017年度の調査に続いて客観的な形で示すことができました。

また、さらに深いところでの心の動きとも言える「刻印」や「覚醒」という感情も、7割以上の児童が抱えています。前者は子どもの記憶や心の中にしっかりと刻まれる状態を、後者は目が開かれる、世界が違って見えるといった状態を指しますが、こうした感覚になる児童が多いことは、オーケストラの音楽体験の効果が、その場だけでは終わらない、持続性の高いものであることを示唆しています。

<調査 B>

今回の調査でも、2週間後を目途に、オーケストラの音楽体験を振り返ってもらったところ、7割弱の子どもたちは、「元気が出てきた」「何だか穏やかな気持ちになった」といった「情操」面の好ましい変化を自分の中に感じています。情操面の改善は、クラシック音楽の効用として従来からしばしば語られてきましたが、本プロジェクトを通じ、オーケストラと過ごす時間によって、子どもたちが充実した生活と学習を日々重ねていく上での土台づくりが促されることを再確認できました。

また、「新しいことに興味が湧いた」や「何かに挑戦したくなった」というように、より具体的な行動に結びつく意識・心境の変化（本プロジェクトでは順に「関心」「意欲」と分類）を感じている児童も、約半数に達します。さらには、人間関係をより良好にしていく志向性（「関係」と分類）の高まりを感じている児童も、3割近くに及びます。このように、オーケストラの音楽体験は、子どもたちの健全な成長にとってポジティブな効果を生んでいることがわかりました。

2) 今後に向けた課題

今回、調査 A、B を継続的に実施したことで、過去 2 回実施した調査結果が妥当であることが一層確認できました。今後も知見を積み上げることで、より精度の高い効果の把握・検証に努めていきます。

4 アンケート票

調査 A

※配付時にはカラー印刷を行いました。

オーケストラの音楽にふれて感じたこと（アンケート）

私たちは、みなさんと一緒にすごせて、とても楽しかったです。
みなさんは、どうでしたか。ぜひ、あなたの感想を聞かせてください。

小学六年生用



（1）あなたは、オーケストラの音楽の時間の中で、どんなことを感じましたか。当てはまるものに、いくつでも○をつけてください。

1. むねがいっぱい	9. うっとりした	17. 何かを思い出した
2. 言葉にできない	10. ドキドキした	18. ちがう自分になった
3. なみだが出そう	11. ウオー！という感じ	19. まだ聞こえている
4. ジーンときた	12. だれかに言いたくなった	20. わすれられない
5. 心が温まった	13. ワクワクした	21. 自分の中に入った
6. 心が楽になった	14. 心がおどった	22. さびしくなった
7. グッときた	15. スカッとした	23. つらい感じになった
8. キラキラしていた	16. こんな初めてだ	24. いやなことを思い出した

（2）プログラムの中で、特によく覚えていたものがあれば、書いてください。
（曲、コーナー、自分たちでやってみたこと、など）

（3）あなたの学校の校歌のほかに、これまでに聞いたことがある曲はありましたか。当てはまるものに一つだけ○をつけてください。

1. ほとんどの曲を聞いたことがあった	2. 1～2曲聞いたことがあった
3. まったく聞いたことがなかった（全部、はじめてきく曲ばかりだった）	

（4）あなたは、オーケストラのえんそうを全て（真さいに）きくのは、初めてでしたか。当てはまるものに一つだけ○をつけてください。

1. はじめて	2. 一回聞いたことがあった	3. 何回か聞いたことがあった
---------	----------------	-----------------

しつ間は、これで終わりです。ありがとうございました♪



オーケストラの音楽の時間をふり返って (アンケート) 小学六年生用

わたしたちは、みなさんと一しょにすごせて、とても楽しかったです。
みなさんは、どうでしたか。ぜひ、オーケストラの音楽の時間をふり返ってみてください。

(1) この前のオーケストラは楽しかったですか、あなたの気持ちに近いものに一つだけをつけてください。

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 最高だった | 5. どちらかといえば楽しくなかった |
| 2. とても楽しかった | 6. あまり楽しくなかった |
| 3. けっこう楽しかった | 7. 全く楽しくなかった |
| 4. どちらかといえば楽しかった | 8. 最悪だった |



(2) それは、なぜでしょうか。思いつくことがあれば、何でも書いてください。

(3) オーケストラの音楽の時間の後、自分の中で何が変わったことはありますか。当てはまるものにいくつでもをつけてください。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 元気が出てきた | 8. 物事を注意して見聞きするようになった |
| 2. 何だかおだやかな気持ちになった | 9. ゆっくり、じっくり考えるようになった |
| 3. 毎日を楽しめるようになった | 10. 勇気のようなものがわいた |
| 4. 周りの人にやさしくできるようになった | 11. 何かにちょう戦したくなった |
| 5. 友達や家族と一緒に何かをしたくなった | 12. 何か新しいものを作りたいくなった |
| 6. 他の人のことを大切に考えるようになった | 13. 音楽や楽器をやりたいくなった |
| 7. 新しいことにきょう味がわいた | 14. 変わったことはない |

続いて、うら椰のしつ問にも答えてください。↓

(4) オーケストラの楽^{がく}器^きで、やってみたいものはありますか。当てはまるものにいくつでも○をつけてください。

1. げん(弦)^{げん}楽^{がく}器^き・・・げんをこすったり、はじいたりして音を出す楽^{がく}器^き
(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ハープ)
2. 管^{かん}楽^{がく}器^き・・・ふいて音を出す楽^{がく}器^き
(フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン、トランペット、トロンボーン、テューバ)
3. 打^だ楽^{がく}器^き・・・たたいて音を出す楽^{がく}器^き
(ティンパニ、大太鼓^{おおい}、小太鼓^{こだい}、シンバル、トライアングル、シロフォン、マリンバ、カステネット)
4. やってみたいものはない

(5) この前のオーケストラのほか、あなたが生^{なま}で(じっさい)に見^みたり、きいたことのあるものがあれば、いくつでも○をつけてください。

- | | | |
|---------------------------|---|---|
| 1. えんそう会(オーケストラ) | 5. 歌 ^{うた} ふき・のう・きょう言 ^{げん} | 9. 美 ^{うつく} しゅつ館 ^{かん} ・博 ^{はく} 物 ^{ぶつ} 館 ^{かん} |
| 2. えんそう会(オーケストラ以外) | 6. ダンス・ぶよう | 10. フロスボーツ |
| 3. 歌 ^{うた} のコンサート | 7. バレエ | 11. どれもなし |
| 4. げき・しばい | 8. オペラ(歌 ^{うた} げき) | |

(6) あなたは、音楽^{おんがく}や楽^{がく}器^きを、学校^{がっこう}のじゅ屋^{やう}のほか、やっていますか。当てはまるものに一つだけ○をつけてください。

1. やっている
2. 今はやっていない(前にやっていた)
3. やったことがない



しつ間^{かん}は、これで終わりです。ありがとうございました♪

子どものためのオーケストラ検証プロジェクト 報告書

2019 年 4 月 発行

発行者 公益社団法人 日本オーケストラ連盟

〒130-0013 東京都墨田区錦糸 1-2-1 アルカセントラル棟 7F

Tel : 03-5610-7275

Fax : 03-5610-7276

E-mail : info@orchestra.or.jp

※本報告書は、子どものためのオーケストラ検証プロジェクトにおける中心的な内容をご紹介しますことを目的としており、全ての調査結果を掲載してはいません。ご関心をお持ちの方は、当連盟までお問い合わせください。